

JAPANESE  
HEART  
FAILURE  
SOCIETY

JAPANESE HEART FAILURE SOCIETY

日本心不全学会

*News Letter*

Vol. 9, No. 3, 2005

発行：2005年9月15日  
日本心不全学会  
Japanese Heart Failure Society  
<http://www.jhfs.gr.jp/>

CONTENTS

1  
7  
9  
12  
19

第9回日本心不全学会学術集会のお知らせ

第70回日本循環器学会総会・学術集会における心不全関連トピックスのご案内

心不全治療のトピックス：心不全に伴う心房細動の治療

平成17年度日本心不全学会総会議案書

学術集会のご案内・関連学会のご案内



第9回日本心不全学会学術集会

Basic Concepts and Innovative Therapeutic Strategies in Heart Failure

～心不全における病態研究と先端的治療戦略～

会期：2005年10月20日(木)～22日(土)
会場：海峡メッセ下関(下関市豊前田町3-3-1)
会長：松崎 益徳(山口大学医学部循環病態内科学教授)
山口大学医学部循環病態内科学
〒755-8505 山口県宇部市南小串1-1-1
TEL：0836-22-2248/FAX：0836-22-2246/E-mail：ninaigim@yamaguchi-u.ac.jp
HP：http://www2.convention.co.jp/jhfs2005/
問合せ先：日本コンベンションサービス株式会社 九州支店(担当：中村)
〒810-0002 福岡市中央区西中洲12-33 福岡大同生命ビル7F
TEL：092-712-6201/FAX：092-712-6262/E-mail：jhfs2005@convention.co.jp

<特別講演>

- 1. (Tentative title) Role of Echo for Quantitative Diagnosis of CHF
演者： A. Jamil Tajik (Mayo Clinic and Foundation, Minnesota, USA)
座長： 吉川 純一(大阪掖済会病院)
2. (Tentative title) Cardiac Ryanodine Receptor Function and Regulation in CHF
演者： Andrew R. Marks (Columbia University, New York, USA)
座長： 矢崎義雄(独立行政法人国立病院機構)
3. (Tentative title) Recent Progress in Treatment of CHF
演者： Jay N. Cohn (University of Minnesota Medical School, Minneapolis, USA)
座長： 篠山 重威(浜松労災病院)

<プレナリーセッション>

- 1. Basic Mechanism and Treatment of Fatal Arrhythmia in Heart Failure
座長： 大江 透(岡山大学大学院歯学総合研究科循環器内科)
小川 聡(慶應義塾大学医学部呼吸循環器内科)
Keynote： Jose Jalife (SUNY Upstate Medical University, NY, USA)
2. Angiogenesis and Cardiovascular Repair in Heart Failure
座長： 藤原 久義(岐阜大学大学院医学研究科循環・呼吸病態学)
磯部 光章(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科循環制御学)
Keynote： Michael D. Schneider (Baylor College of Medicine, Houston, TX, USA)
3. New Insights into RAAS Inhibition in Heart Failure - Bench to Bedside and Beyond -
座長： 堀 正二(大阪大学大学院医学系研究科病態情報内科学)
松原 弘明(京都府立医科大学大学院医学研究科循環器病態制御学)
Keynote： Francis G. Spinale (Medical University of South Carolina, SC, USA)
Faiez Zannad (Hôpital Jeanne d'Arc, France)
4. Recent Advances in Diagnosis of Heart Failure - New and Better Technologies -
座長： 鄭 忠和(鹿児島大学大学院歯学総合研究科循環器・呼吸器病学)
玉木 長良(北海道大学大学院医学研究科病態情報学)
Keynote： John C. Burnett, Jr. (Mayo Clinic, USA)
Namsik Chung (Yonsei University College of Medicine, Korea)
5. New Insights into Beta-blocker Therapy in Heart Failure - Bench to Bedside and Beyond -
座長： 北島 顕(医療法人カレスサッポロ)
和泉 徹(北里大学医学部内科学)
Keynote： Philippe Lechat (Hôpital Pitié-Salpêtrière, Paris, France)
Philip A. Poole-Wilson (Imperial College London, United Kingdom)

日本心不全学会組織

Table with columns for roles (理事長, 理事, 監事, 評議員) and names of members. Includes names like 堀 正二, 磯部光章, 井上 博, etc.

(50音順, 敬称略)

賛助会員一覧 (平成17年9月15日現在, 50音順)

Table listing sponsors categorized by initials (あ, さ, た, な, は, み). Includes companies like アストラゼネカ株式会社, ファイザー株式会社, etc.



<シンポジウム>

1. Signaling Pathway and New Therapeutic Targets in Cardiovascular Diseases

座長: 友池 仁暢(国立循環器病センター)

小室 一成(千葉大学大学院医学研究院循環病態医科学)

Keynote: Steven R. Houser(Temple University School of Medicine, Philadelphia, USA)

Rainer Schulz(Universitätsklinikum Essen, Germany)

2. Oxidative Stress and Inflammation in Chronic Heart Failure

座長: 竹下 彰(学校法人麻生塾麻生医療福祉専門学校)

横山 光宏(神戸大学大学院医学系研究科循環呼吸器病態学)

Keynote: Peter P. Liu(The Toronto General Hospital University Health Network, Canada)

3. Genetics and Gene Therapy in Heart Failure

座長: 今泉 勉(久留米大学医学部第三内科学)

永井 良三(東京大学大学院医学系研究科循環器内科学)

Keynote: Jeffrey A. Towbin(Texas Children's Hospital, USA)

<パネルディスカッション>

1. Innovative Strategies in Surgical Treatment of Heart Failure

座長: 高本 眞一(東京大学大学院医学系研究科臓器病態外科学)

中谷 武嗣(国立循環器病センター臓器移植部)

Keynote: Antonio M. Calafiore("S Giovanni Battista" Hospital, Torino, Italy)

2. Diastolic Heart Failure: Diagnosis and Management

座長: 丸山 幸夫(福島県立医科大学第一内科学)

白土 邦男(東北大学大学院医学系研究科循環器病態学)

Keynote: Karl Swedberg(Goteborg University, Goteborg, Sweden)

3. Device Therapy for Chronic Heart Failure (ICD, Resynchronization, Assist Device)

座長: 笠貫 宏(東京女子医科大学心臓病センター循環器内科)

許 俊鋭(埼玉医科大学外科学)

Keynote: William T. Abraham(The Ohio State University, Columbus, OH, USA)

Cheuk-Man Yu(The Chinese University of Hong Kong, Hong Kong)

<特別セッション>

Late-Breaking Clinical Trials in Japan

座長: 筒井 裕之(北海道大学大学院医学研究科循環病態学)

山崎 力(東京大学クリニカルバイオインフォマティクス研究ユニット)

指定演題3題+公募演題3題

<教育講演>

1. 心不全と心房細動

座長: 山口 巖(筑波大学臨床医学系内科学)

演者: 小川 聡(慶應義塾大学医学部呼吸循環器内科)

2. 心不全の画像診断

座長: 菱田 仁(藤田保健衛生大学循環器内科)

演者: 吉田 清(川崎医科大学循環器内科)

3. 慢性心不全と運動

座長: 藤田 正俊(京都大学医療技術短期大学部衛生技術学科)

演者: 伊東 春樹(心臓血管研究所附属病院循環器内科)

4. 慢性心不全の非薬物療法

座長: 井上 博(富山医科薬科大学第二内科)

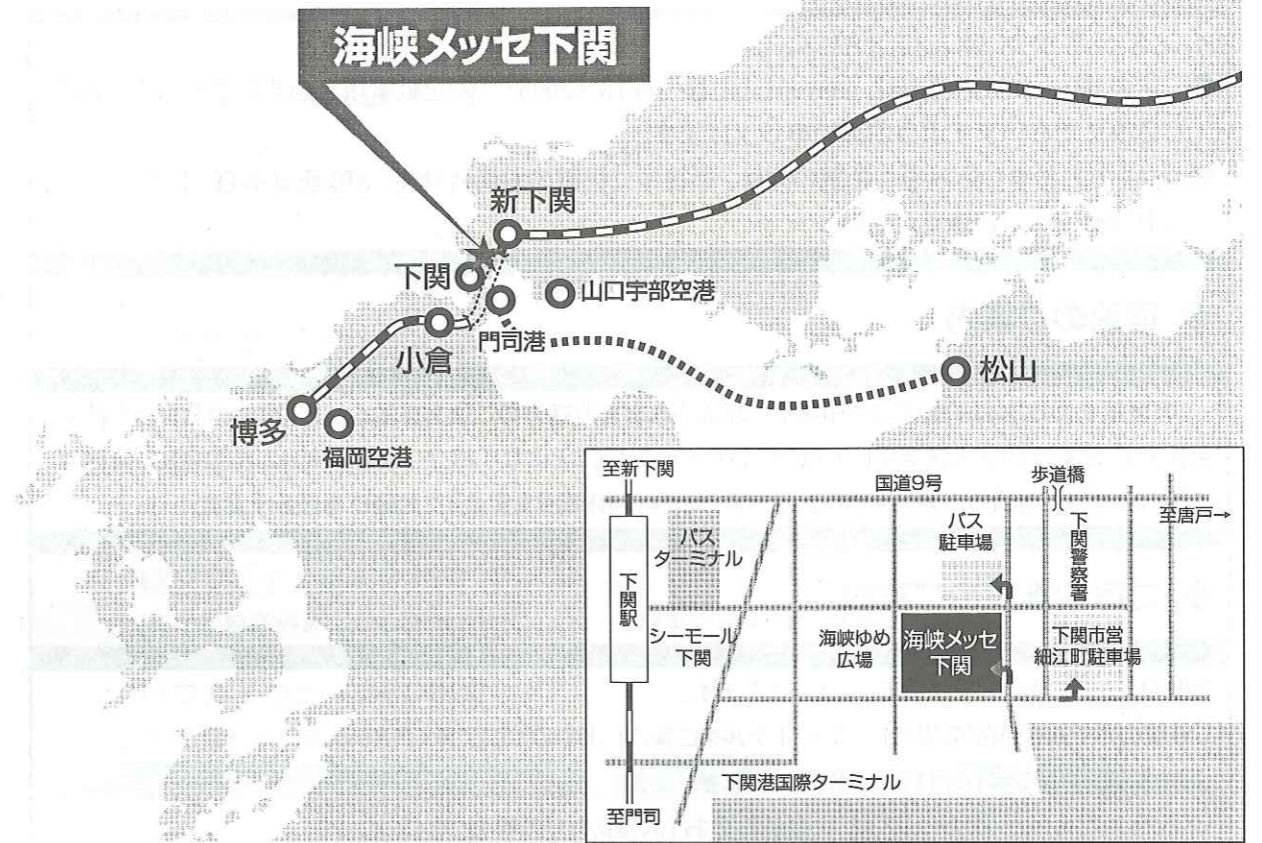
演者: 笠貫 宏(東京女子医科大学循環器内科)

5. 拡張型心筋症の診断と治療

座長: 土居 義典(高知大学老年病・循環器・神経内科学)

演者: 和泉 徹(北里大学医学部内科学II)

Access to SHIMONOSEKI  
下関へのアクセス



下関駅より徒歩15分

所要時間

The Time Required

東京方面から	羽田空港	飛行機	1時間30分	山口宇部空港	バス	1時間15分	下関	徒歩	15分	会場	3時間			
	羽田空港	飛行機	1時間40分	福岡空港	地下鉄	5分	博多	新幹線こだま	30分	新下関	タクシー	15分	会場	2時間30分
大阪方面から	新大阪	新幹線のぞみ・ひかり	2時間30分	小倉	新幹線こだま	15分	新下関	タクシー	15分	会場	3時間			
	新大阪	新幹線のぞみ・ひかり	2時間	新山口	新幹線こだま	5分	新下関	タクシー	15分	会場	2時間20分			
四国方面から	松山観光港	超高速旅客線シーマックス	2時間30分	門司港	JR鹿児島本線(快速)	7分	門司	JR山陽本線	7分	下関	徒歩	15分	会場	3時間

新下関駅から会場まで バス 23分 タクシー 15分 山口宇部空港から下関行きのバスは路線バスですので座席数に限りがあります



## 第9回日本心不全学会学術集会 宿泊のご案内

インターネット または FAX にて

- 学会 HP・・・ <http://www2.convention.co.jp/jhfs2005/> の記載事項を必ずお読みの上、お申し込みくださいますようお願い申し上げます。
- FAX でのお申し込みをご希望の方は、最後に掲載のお問合せ先：JTB 西日本 EC オペレーションセンターへご連絡ください。

### ◆ 宿泊のご案内

この度第9回日本心不全学会学術集会に出席されます皆様方のご便宜を図るため、宿泊のお世話を株式会社 JTB 広島支店法人営業部にて取り扱わせていただくことになりました。全国各地より参加される皆様方に特別料金でご宿泊のご案内を申し上げます。何卒ご利用賜りますようお願い申し上げます。

### ◆ ご宿泊施設のご案内

会期中、下記のホテルをご用意いたしております。

ご希望のホテルが満室の場合は、他のホテルをご案内しますのでご了承ください。

・宿泊期間 2005年10月19日(水)～21日(金) 3泊

・下記宿泊料金は一泊サービス料・税金込みのお1人様あたりの料金 です。

\*朝食は無料サービスです。

#### 1.プリンスホテル下関

JR下関駅より徒歩約2分、会場まで徒歩6分

#### 2.下関ステーションホテル

JR下関より徒歩1分、会場まで徒歩7分

#### 3.ホテルウィングインターナショナル下関

JR下関より徒歩2分、会場まで徒歩6分

#### 4.ホテル 38 下関

JR下関東口から徒歩3分、会場まで徒歩6分

#### 5.ヴィアイン下関

JR下関東口から徒歩1分、会場まで徒歩7分

#### 6.下関グリーンホテル

JR下関駅から徒歩3分、会場まで徒歩6分

#### 7.下関駅西ワシントンホテルプラザ

JR下関駅西口より徒歩約2分、会場まで徒歩8分

#### 8.下関東急イン

JR下関東口から徒歩約2分、会場まで徒歩4分

#### 9.プラザホテル下関

JR下関駅から徒歩10分、会場まで徒歩4分

#### 10.東京第一ホテル下関

下関駅から車で6分、会場までタクシーで約6分

#### 11.下関グランドホテル

下関駅(山陽本線)から車で5分、会場までタクシーで約4分

#### 12.西鉄イン小倉

JR小倉駅から徒歩で4分、会場までJR利用で約25分

#### 13.プラザホテル北九州

JR小倉駅新幹線口から東へ歩いて5分、会場までJR利用で約25分

#### 14.ブルーウェーブイン小倉

JR小倉駅北口徒歩5分、会場までJR利用で約25分

### ◆ お申込方法

・ <http://www2.convention.co.jp/jhfs2005/> へアクセスください。

個人情報を登録の上、ID 番号及びパスワードを取得後、個人ページへログインし、お申込ください。

※個人情報の登録が完了していない方は登録を先にお済ませください。

### ◆ お申込代金・お支払方法

お支払い方法はクレジットカード決済、またはコンビニエンス払いでお願い致します。

お申込に際しましては、ご宿泊料金の全額を頂きます。

◆ コンビニエンスストアでのお支払方法:

申込みデータ到着後、1週間以内に払込票を送付いたしますのでコンビニエンスストアにてお支払ください。

※ご請求金額にはコンビニ収納代行手数料 ¥525 円(税込)が別途含まれます。

◆ クレジットカードでのお支払方法:

支払金額が確定すると、オンライン決済を行うページが表示されます。クレジットカード情報を入力していただきますと30秒程度でお支払が完了いたします。

詳細につきましては <http://www2.convention.co.jp/jhfs2005/> をご覧ください。



◆ ご予約の確認

宿泊申込データの到着と入金確認をもって予約が完了し、弊社から宿泊予約確認書を E-mail 又は FAX にてお送りします。

※なお、宿泊予約確認書を必ずご持参のうえ、宿泊先までお越しください。

◆ ご予約の取消・変更

・予約内容を取消・修正する場合は個人ページより予約情報の取消・修正を行ってください。

・申込の取消につきましては、下記取消料を申し受けます。

・予約申込金の払い戻しは集会終了後となります。

取消料	
出発(宿泊)日の13日前以降4日前まで	旅行代金の20%
出発(宿泊)日の3日前以降前日まで	旅行代金の30%
旅行開始日(宿泊)当日で旅行開始前まで	旅行代金の50%
旅行開始日後、又は無連絡不参加	旅行代金の100%

◆ 旅行条件(要約)

<http://www2.convention.co.jp/jhfs2005/>に掲載の

ご旅行条件書(国内募集型企画旅行)を必ずお読みください

◆ お申込の締切

2005年9月30日(金) 12:00迄

※満室になり次第締切らせていただきます。

◆ ご宿泊についてのお問い合わせ

JTB 西日本 EC オペレーションセンター  
「第9回日本心不全学会学術集会」係

TEL :06-6260-5076  
FAX :06-6263-0717  
E-mail :westec\_op3@jtb.jp  
営業時間 :9:30-17:30  
(土・日・祝祭日は休業)

第70回日本循環器学会総会・学術集会における心不全関連トピックスのご案内

岐阜大学大学院医学研究科再生医科学循環病態学  
藤原久義・竹村元三

日本循環器学会は1935年産声を挙げ、今回は70回目という節目に当たります。第70回記念日本循環器学会総会・学術集会として2006年3月24日(金)~26日(土)、名古屋の国際会議場で開催できることは大変意義深いこととあります。記念大会ということとを考慮し、第70回記念学術集会のテーマを「過去・現在・未来-未来のために今何をすべきか-(Past, Present and Future of Cardiology-what should we do for the future-)」といたしました。日本循環器学会の70年の歴史を振り返ると共に、循環器医学・医療の激動が予想される21世紀という未来に向かって、今何をすべきかを問う学術集会にしたいと思っております。そのために従来のものに加えて、以下のことを重点課題として取り上げたいと思っております。

- 1)歴史と将来の展望
- 2)ポストDES(薬剤溶出ステント)時代の循環器
- 3)再生医療
- 4)オーダーメイド医療
- 5)予防医学
- 6)心・血管イメージ-beyond CAG時代の循環器-
- 7)IT・ロボット
- 8)コメディカルスタッフ、医療産業、医療行政に従事する方々との共同学会
- 9)外国、特にアジアからの参加の促進
- 10)プレスインタビューの充実

上記の考え方に沿い美甘レクチャー、真下記念講演、6つの特別講演、6つのプレナリーセッション、12のシンポジウムに内外の一流のすばらしい先生方を招待することになっております。またラウンドテーブルディスカッション、トピックス、ミートザエキスパート、コントロールシー、ランチョンセミナー、ファイアーサイドセミナーなどにも海外から高名な先生方が100名以上参加され、循環器学の過去・現在・未来をみすえたベンチからベッドサイドまでの最新の研究成果を聞くことが出来ます。また例年と同様に、AHA、ACC、ESC、APSC、KSCとのジョイントシンポジウムも開催され、日本と各国の循環器疾患の病態・予後の違いとその成因について討議されます。

申すまでもなく心不全はあらゆる心疾患の終末像であり、患者数は増加の一方をたどっています。過去・現在・未来ともに循環器病学の最大のテーマであります。第70回記念学術集会においても心不全関連の話題を数多く取り上げており、予定されている講演、セッションのうち特に心不全に関連の深いものを以下に列記します。

- 美甘レクチャー  
Treatment of Congestive Heart Failure  
- Bertram Pitt (University of Michigan, USA)
- 真下記念講演  
- 田畑泰彦(京都大学再生医科学研究所)



○特別講演

1) Regeneration Therapy for Acute Myocardial Infarction

-A. M. Zeiher (J. W. Goethe University, Germany)

2) Cardiac Function - Integrated Physiology

-Stephen F. Vatner (Cardiovascular Research Institute, USA)

○プレナリーセッション

1) 心室再同調療法を中心とした集学治療の組み立て方

2) 細胞死と修復 - 心疾患における再生 -

○シンポジウム

日本人の慢性心不全の特徴とそれに基づく治療戦略

・高血圧性心臓病と心不全発症機序

・血管新生に関する新しい基礎および臨床知見

○教育セッション

心不全の治療 - 薬物療法から非薬物療法まで -

○ジョイント・シンポジウム

AHA-JCS Joint Symposium : Cardiac Regeneration

ESC-JCS Joint Symposium : Autoimmunity in the Heart

○特別セッション

(ラウンドテーブルディスカッション、コントラバース、ミーティングエキスパート、トピックス)

1) 心不全発症機序研究の最前線

2) AT2受容体はどこまで善玉か? 基礎と臨床の立場から

3) 重症心不全への再生医療実現化 - Update -

4) 循環器疾患と睡眠時無呼吸症候群(SAS)

5) 心血管分化・再生と死の情報伝達機構

特に心不全に関連の深いと思われる企画だけでもこのように多数準備を進めており、その他現在まだ企画中のものもございます。心不全診療に関する最新の話、心不全研究のホットなトピックスをご提供できる場になりたいと考えておりますので、第70回記念日本循環器学会総会・学術集会への日本心不全学会会員の皆様の多数のご参加をお待ち申し上げます。

心不全治療のトピックス

心不全に伴う心房細動の治療

井上 博

(富山医科薬科大学医学部第二内科)

心房細動は心疾患のない例にもみられる(孤立性)が、多くの場合は高血圧を含む何らかの基礎疾患を有する例にみられる。Tomitaら<sup>1)</sup>の2600例余りの心房細動例(平均年齢67歳)を対象にした検討では、孤立性が33%を占め、基礎疾患としては高血圧が29%にみられ、その他として弁膜症19%、虚血性11%、その他8%という結果であった。心房細動例は何らかの基礎疾患を持つ例が多く、心房の補助ポンプ機能が消失して心拍出量が低下するので、心房細動の結果心不全が誘発され、また後述のように心不全の結果心房細動が誘発される。心不全例に合併する心房細動の治療方針を立てるに当たっては、考慮すべき問題が色々ある。

心不全と心房細動

1) 心不全と心房細動の悪循環

心房細動では心拍出量が低下する結果、基礎心疾患を持つ例や左室拡張機能の低下した例(左室肥大例、高齢者など)では、心不全を発症する(図1)<sup>2)</sup>。一方、心不全では心房筋のリモデリングが生じ、不応期の不均一な延長、伝導抑制のため

心房細動が発生しやすくなる<sup>3)</sup>。この他に、間質線維化や容量あるいは圧負荷も心房細動の発生を促す(図1)。この悪循環を断ち切る必要があり、実際問題として心拍数の適切なコントロールあるいは洞調律化のいずれによっても、心房細動例の低下した収縮能を改善することが可能である。

2) 心不全例の心房細動有病率

図2は過去に行われた心不全に対する大規模臨床試験への参加例の心房細動合併頻度を心不全重症度別に示したものである<sup>2)</sup>。それぞれの試験の目的は異なるが、心不全重症度が高い例を対象にした試験で心房細動合併頻度が高いことが分かる。

3) 心房細動の合併が心不全例の生命予後に与える影響

疫学的調査の結果では心房細動の存在は生命予後を悪化させる要因であることが示されている<sup>4)</sup>。表1<sup>5-7)</sup>は心不全例で心房細動が合併すると生命予後が悪くなるとする研究をまとめた。Stevensonの報告<sup>7)</sup>は1985~89年に治療を受けた例を対象としたもので、全死亡でも突然死でも心房細動合併例で悪いという結果である(SOLVD研究<sup>6)</sup>の突然死のみ有意差なし)。

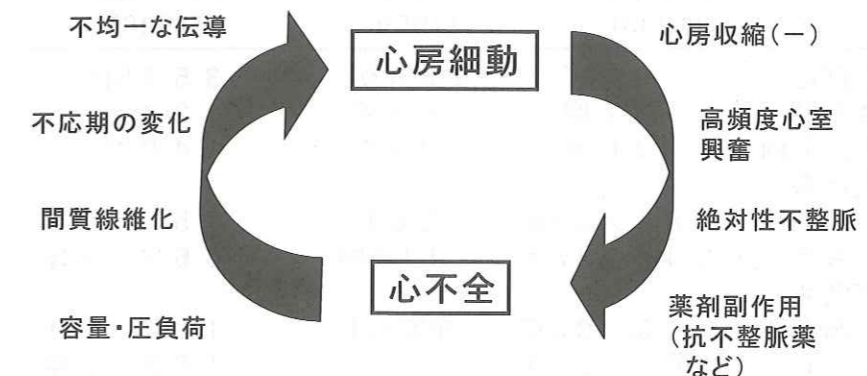


図1. 心房細動と心不全の悪循環(文献2)より作成)



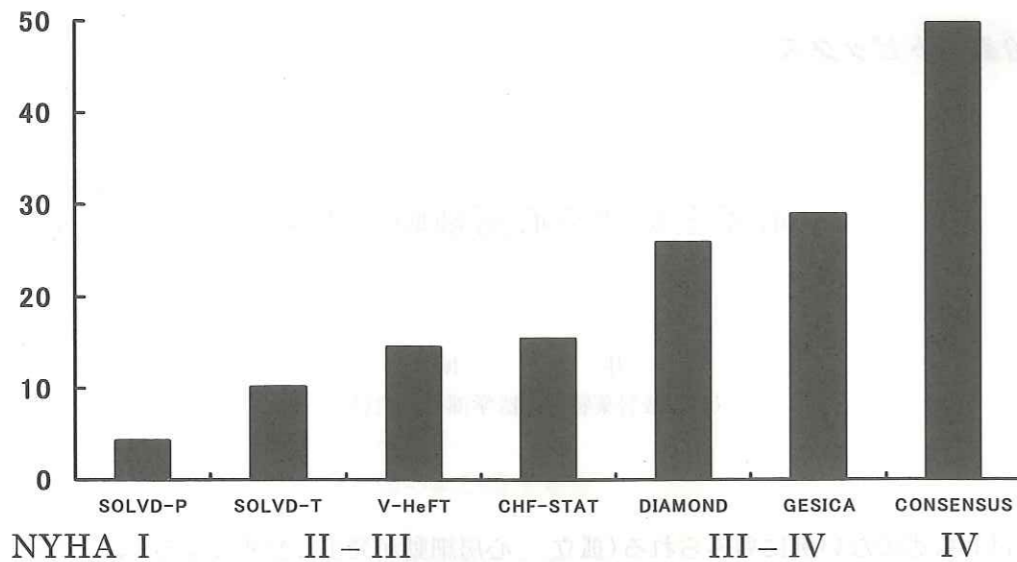


図2. 心不全重症度と心房細動頻度 (文献2)より

しかし、心不全に心房細動を合併しても生命予後が悪化しないという報告もある(表2)<sup>7-9)</sup>。Stevensonの成績<sup>7)</sup>は1990~93年に治療を受けた例のものであるが、同じ研究者の1980年代の

表1. 心房細動が合併すると心不全例の生命予後が悪化するという成績

	Middlekauff (1991)	SOLVD研究 (1998)	Stevenson (1996)
症例数	390例	6517例	359例 <sup>¶</sup>
A F例	75例	419例	20%
駆出分画	19%	27%	<40%
生存率			
洞調律	71%/年	92%/年	55%/2年
A F	52%/年	87%/年	39%/2年
突然死			
洞調律	18%/年	2.2%/年	10%/2年
A F	31%/年	2.5%/年*	30%/2年

\*NS、<sup>¶</sup>1985~89年の症例

表2. 心房細動が合併しても心不全例の生命予後は悪化しないとする成績

	V-HeFT-II (1993)	Mahoney (1999)	Stevenson (1996)
症例数	795例	234例	351例 <sup>¶</sup>
A F例	107例	62例	24%
駆出分画	30%	24%	<40%
生存率			
洞調律	48%/2.5年	差なし	75%/2年
A F	54%/2.5年	1.1年間	66%/2年
突然死			
洞調律	20%/2.5年	記載なし	10%/2年
A F	20%/2.5年		16%/2年

<sup>¶</sup>1990~93年の症例

例(表1)に比べて、生存率が改善していることが分かる。1990年代の例で生命予後が改善しているのは、抗不整脈薬としてI群薬に変わってアミオダロンを使用するようになったこと、アンジオテンシン変換酵素阻害薬などの使用頻度が増えたことが関係している<sup>7)</sup>。

表1と表2の生命予後の差は、対象例の左室機能、治療内容などの差が原因であろう。

### 抗不整脈薬による心房細動予防

心房細動の存在が心機能悪化やリモデリングの原因となるので、抗不整脈薬によって洞調律を維持すれば生命予後により影響が出ることが予想される。非リウマチ性心房細動の血栓塞栓症に対するワルファリンの効果を検討した大規模試験の1つであるSPAFの参加例を対象に、心不全の存在の有無と抗不整脈薬の使用の有無で4群に分けて生命予後を検討した成績がある<sup>10)</sup>。これによると、心不全がある群で生命予後が悪く、しかも抗不整脈薬を使用している例(心室性不整脈に対する使用例を除外)では生命予後がさらに悪かった。心不全のない例では、抗不整脈薬の使用の有無で生命予後に差は見られなかった。本来、洞調律を維持したい心不全例で抗不整脈薬の使用によって生命予後が悪化することは治療方針を立てる上で十分に考慮する必要がある。

一方、アミオダロンの有効性を検討したCHF-STAT<sup>11)</sup>では、アミオダロンによって洞調律化された例では心房細動に留まった例に比べて生命予後がよいことが示されている。しかし、この成績はそもそも生命予後の良い例でアミオダロンによる洞調律化の頻度が高いためだとする批判が避けられない。同じIII群抗不整脈薬であるドフェチリド(我が国では未発売)の効果を検討したDIAMOND試験<sup>12)</sup>では、ドフェチリドが投与された心不全例で洞調律化の頻度が高く(12%対1%)、心房細動の新規発症頻度が低かった(2%対7%)。III群薬による心房細動予防の効果が期待されるが、我が国では使用できる薬剤や適用が限られる。

### アブレーション

抗不整脈薬による洞調律維持に限界があるので、高周波エネルギーを用いた肺静脈隔離術が心不全例の心房細動根治に試みられている<sup>13)</sup>。この手技によって洞調律化が58例中78%の例で達成され、この様な例では3ヶ月後頃までに左室駆

出分画が21%上昇し、運動耐容能やQOLの改善が認められた。心不全例のように抗不整脈薬の使用に問題がある例では、アブレーションを治療の選択肢として考慮する。

### Upstream治療

高頻度心房興奮による心房リモデリングや心不全による心房リモデリングではレニン・アンジオテンシン系の活性化により心房の間質線維化が進む。このため伝導障害が生じて興奮回路が起りやすくなり、心房細動の合併が増すと説明されている<sup>3)</sup>。動物実験ではアンジオテンシン変換酵素阻害薬やアンジオテンシンII受容体拮抗薬が心房間質の線維化を抑制して、心房細動発生をも抑制することが示されている<sup>14, 15)</sup>。左室機能不全例を対象にした臨床試験をまとめて解析すると、アンジオテンシン変換酵素阻害薬やアンジオテンシンII受容体拮抗薬によって心房細動の新規発症や再発が58%低下することが認められた<sup>16)</sup>。これらの薬剤が心房細動を抑制する機序としては、①心房リモデリング抑制、②交感神経活性化の抑制、③圧受容体反射感受性の改善、④血清K値の上昇、⑤K電流の修飾などが挙げられている。

以上のように、心不全例の心房細動を治療しようという場合には、心拍数コントロールのみで管理が可能なのか否かを見極め、生命予後を悪化させない抗不整脈薬や手技を選択するばかりでなく、心房細動発生機序の上流の要因に対する治療をも考慮に入れることが大切である。

### 文献

- 1) Tomita F, et al. Jpn Circ J 64:653, 2000.
- 2) Maisel WH, et al. Am J Cardiol 91:2D, 2003.
- 3) Nattel S, et al. Circ Res 87:440, 2000.
- 4) Benjamin EJ, et al. Circulation 98:946, 1998.
- 5) Middlekauff HR, et al. Circulation 84:40, 1991.
- 6) Dries DL, et al. J Am Coll Cardiol 32:695, 1998.
- 7) Stevenson WG, et al. J Am Coll Cardiol 28:1458, 1996.
- 8) Carson PE, et al. Circulation 87:IV-102, 1993.
- 9) Mahoney P, et al. Am J Cardiol 83:1544, 1999.
- 10) Flaker GC, et al. J Am Coll Cardiol 20:527, 1992.
- 11) Deedwania PC, et al. Circulation 98:2574, 1998.
- 12) Torp-Pedersen C, et al. N Engl J Med 341:857, 1999.
- 13) Hsu LF, et al. N Engl J Med 351:2373, 2004.
- 14) Kumagai K, et al. J Am Coll Cardiol 41:2197, 2003.
- 15) Sakabe M, et al. J Cardiovasc Pharmacol 43:851, 2004.
- 16) Madrid AH, et al. PACE 27:1405, 2004.



### 平成17年度日本心不全学会総会

## 議案書

日時：平成17年10月21日(金) 11:30~12:00

会場：第1会場(海峡メッセ Room 1)

議長：堀 正二 会長

次第：報告事項1. 各委員会報告

- 2. 第9回学術集会
- 3. 第10回学術集会
- 4. 第11回学術集会
- 5. その他

審議事項1. 平成16年度決算書ならびに監査報告について

- 2. 平成18年度予算書案について
- 3. 第12回学術集会会長の選出
- 4. 理事・監事・幹事の継続就任について
- 5. 新評議員について
- 6. その他

### 報告事項1. 会員数の推移について

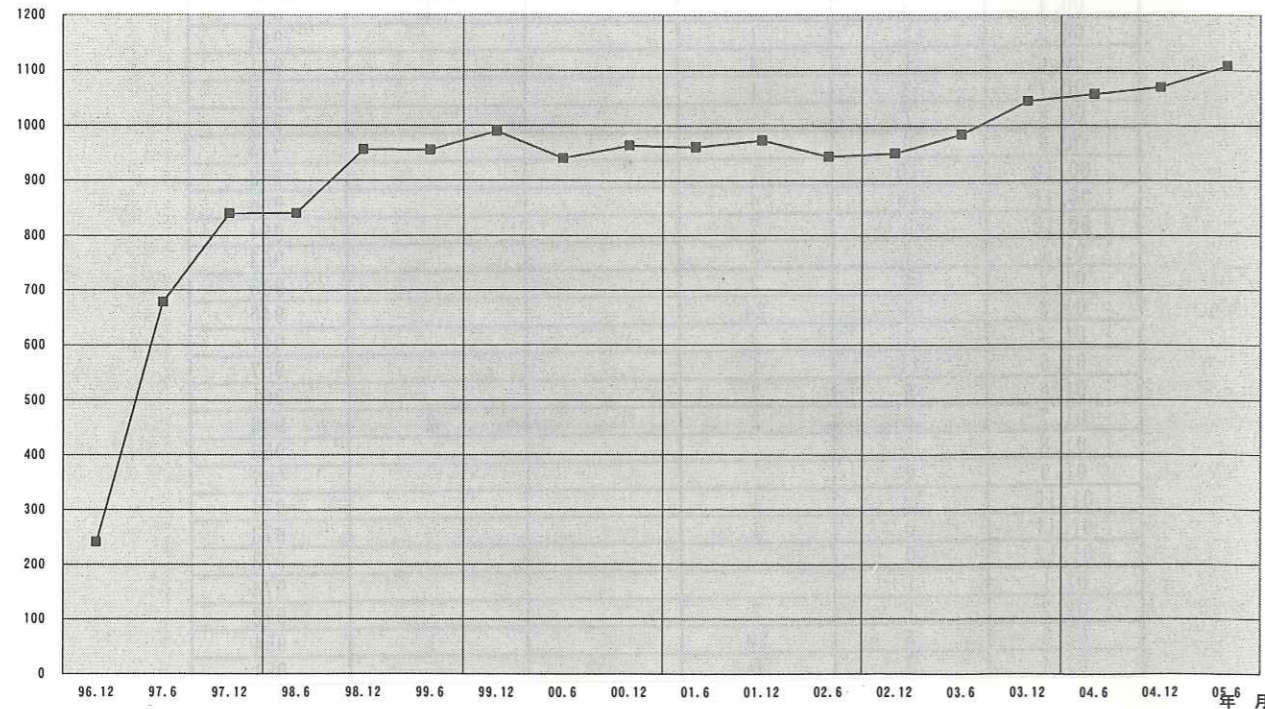
年月	正会員入会	正会員退会	名誉会員	賛助会員入退会	合計
96.12	241				241
97.1	262				503
97.2	43			4	550
97.3	18	1		2	569
97.4	72	1		6	646
97.5	17			2	665
97.6	11			2	678
97.7	9			2	689
97.8	4			7	700
97.9	32			4	736
97.10	99			2	837
97.11	1				838
97.12	3			-1	840
98.1	2				842
98.2	0				842
98.3	1	8			835
98.4	1	1			835
98.5	9	5			839
98.6	4	2			841
98.7	1	1			841
98.8	1	1			841
98.9	38				879
98.10	78				957
98.11	1	2			956
98.12	1	1			957
99.1	1	1			957
99.2	4	1			960
99.3	1	7			954
99.4	9	6		-1	956
99.5	3	1			958
99.6	2	3		-1	956
99.7	1	6			951
99.8	1	3			949
99.9	4	5			948
99.10	20	1			967
99.11	1	5			963
99.12	1	4			960
00.1	0	2			958
00.2	0				958
00.3	1	15		-1	943
00.4	5	4		-1	943
00.5	2	1			944
00.6	1	4			941
00.7	3	1			943
00.8	1				944
00.9	0				944
00.10	10	1			953
00.11	15	4			964
00.12	2	2			964
01.1	1	2			963
01.2	4	2			965
01.3	5	24			946
01.4	4	3			947
01.5	11	1			957
01.6	6	2			961
01.7	6	2		-2	963
01.8	2				965
01.9	2				967
01.10	11	4			974
01.11	0	1			973
01.12	0				973
02.1	1				974
02.2	1	3			972
02.3	3	20		-1	954
02.4	3	6			951



年月	正会員入会	正会員退会	名誉会員	賛助会員入退会	合計
02.5	3	1			953
02.6	1	7			947
02.7	0	2			945
02.8	2	4			943
02.9	4	2			945
02.10	12				957
02.11	0	3			954
02.12	0	4			950
03.1	0	1			949
03.2	0	1			948
03.3	2	10			940
03.4	3	6			937
03.5	20	4			953
03.6	37	6			984
03.7	19	2			1001
03.8	6	1			1006
03.9	10	1			1015
03.10	27		7		1049
03.11	0	1			1048
03.12	2	4	-1		1045
04.1	1	2			1044
04.2	1	2			1043
04.3	2	17		-1	1027
04.4	9	14			1022
04.5	27	1			1048
04.6	13	3		1	1059
04.7	5	1			1063
04.8	3	1			1065
04.9	1				1066
04.10	3				1069
04.11	1				1070
04.12	2			-1	1071
05.1	1	1			1071
05.2	2	8		-1	1064
05.3	3	4			1063
05.4	2	1			1064
05.5	37	1			1100
05.6	10	1			1108
05.7	3	1			1110

会員数

会員数の推移



<地域別会員数> (2005年6月末現在)

	北海道	東北	関東	中部	甲信越	関西	中国	四国	九州	海外	合計
正会員	68	59	281	114	71	268	74	46	97	5	1083
名誉会員			2	2	1			1			6
賛助会員			13			8					21
寄贈会員			1			1					2

審議事項1. 日本心不全学会平成16年度決算書(円)

(2004年4月1日~2005年3月31日)

	平成16年度 予算額	平成16年度 決算額	差異 (△超過)
<b>●収入の部</b>			
前受金	0	90,000	△90,000
会費収入	13,100,000	12,500,000	600,000 (納入率73%)
正会員会費	8,700,000	7,900,000	800,000
賛助会員会費	4,400,000	4,600,000	△200,000
未払い金	0	1,157,745	△1,157,745
広告掲載料収入	2,000,000	2,615,000	△615,000
雑収入	4,680,000	5,180,013	△500,013
両心室ペーシング研修会共催分配金	2,680,000	2,680,000	0
寄付金	2,000,000	2,500,000	△500,000
受け取り利息ほか	0	13	△13
当期収入合計(A)	19,780,000	21,542,758	△1,762,758
前年度繰越金	9,957,612	9,957,612	0
合計(B)	29,737,612	31,500,370	△1,762,758
<b>●支出の部</b>			
刊行事業費	11,817,800	11,168,549	649,251
JCF購読料(年6回)	8,117,800	8,117,800	0
JCF・ニュースレター送料	1,500,000	1,089,003	410,997
ニュースレター編集制作費	2,200,000	1,961,746	238,254
学術集会費	700,000	500,000	200,000 (年4回発行)
予稿集発行負担金	500,000	500,000	0
予稿集送料	200,000	0	200,000
管理費	3,381,867	3,106,129	275,738
学会事務センター	865,200	865,200	0
大阪大学	1,166,667	1,592,969	△426,302
ホームページ委託費	200,000	141,225	58,775
会議費	500,000	41,878	458,122
通信費	300,000	212,166	87,834
印刷費	200,000	124,500	75,500
雑費	150,000	128,191	21,809
損金(1)	5,715,870	5,715,870	0
損金(2)	50,000	50,000	0
当期支出合計(C)	21,665,537	20,540,548	1,124,989
<b>●当期収支差額(A-C)</b>			
	△1,835,537	1,002,210	
<b>●次期への繰越金(B-C)</b>			
	8,122,075	10,959,822	△2,837,747



<貸借対照表> (円) (2005年3月31日現在)

借方		貸方	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
流動資産	10,959,822	流動負債	0
預け金	0	前受会費・未払費用	0
普通預金	10,959,822	次年度繰越金	10,959,822
前払い費用	0	前年度	9,957,612
未収入金	0	当年度	1,002,210
合計	10,959,822	合計	10,959,822

<財産目録> (円) (2005年3月31日現在)

●資産の部

科目	摘要	金額
預け金		0
普通預金	UFJ銀行茨木支店	10,959,822
前払費用		0
未収入金		0
資産合計		10,959,822

●負債の部

科目	摘要	金額
前受会費		0
未払費用		0
繰越金		10,959,822
負債合計		10,959,822

収支決算書および財産目録に記載された内容および金額は上記のとおり相違ありません。

2005年 月 日

監事 和泉 徹 (印)  
監事 藤田 正俊 (印)

審議事項2. 日本心不全学会平成18年度予算書(案)(円)  
(2005年4月1日~2006年3月31日)

	平成17年度 予算額	平成18年度 予算額
●収入の部		
会費収入	12,70,000	12,900,000
正会員会費	8,700,000	8,700,000
賛助会員会費	4,000,000	4,200,000
広告掲載料収入	3,000,000	3,000,000
雑収入	2,000,000	2,000,000
寄付金	2,000,000	2,000,000
受け取り利息ほか	0	13
当期収入合計(A)	17,700,000	17,900,000
前年度繰越金	8,122,075	9,572,075
合計(B)	25,822,075	27,472,075
●支出の部		
刊行事業費	12,200,000	12,200,000
JCF購読料(年6回)	8,500,000	8,500,000 (年6冊購入)
JCF・ニュースレター送料	1,500,000	1,500,000 (年4回送付)
ニュースレター編集制作費	2,200,000	2,200,000 (年4回発行)
学術集会費	700,000	700,000
予稿集発行負担金	500,000	500,000
予稿集送料	200,000	200,000
管理費	3,350,000	3,350,000
委託費	2,000,000	2,000,000
ホームページ委託費	200,000	200,000
会議費	500,000	500,000
通信費	300,000	300,000
印刷費	200,000	200,000
雑費	150,000	150,000
当期支出合計(C)	16,250,000	16,250,000
●当期収支差額(A-C)	1,450,000	1,650,000
●次期への繰越金(B-C)	9,572,075	11,222,075



## 審議事項3. 第12回学術集会会長の選出について

## 次回・次々回・歴代会長

平成19年度(2007年)

第11回会長 友池 仁暢 国立循環器病センター

平成18年度(2006年)

第10回会長 和泉 徹 北里大学医学部内科学II

平成17年度(2005年)

第9回会長 松崎 益徳 山口大学大学院医学研究科デジタル情報制御医学講座  
器官病態内科学

平成16年度(2004年)

第8回会長 藤原 久義 岐阜大学大学院医学研究科再生医科学循環病態学  
呼吸病態学第二内科

平成15年度(2003年)

第7回会長 堀 正二 大阪大学大学院医学系研究科病態情報内科学

平成14年度(2002年)

第6回会長 永井 良三 東京大学医学部循環器内科

平成13年度(2001年)

第5回会長 白土 邦男 東北大学医学部第一内科

平成12年度(2000年)

第4回会長 横山 光宏 神戸大学医学部内医学第一講座

平成11年度(1999年)

第3回会長 竹下 彰 九州大学医学部循環器内科

平成10年度(1998年)

第2回会長 北畠 顕 北海道大学医学部循環器内科

平成9年度(1997年)

第1回会長 篠山 重威 京都大学大学院医学研究科循環病態学

(所属:在任時)

## 学術集会のご案内

## 第9回学術集会

会 期: 2005年10月20日(木)~22日(土)  
 会 場: 海峡メッセ下関  
 会 長: 松崎益徳(山口大学器官制御医科学講座循環病態内科学)  
 メインテーマ: 「Basic Concepts and Innovative Therapeutic Strategies in Heart Failure  
 (心不全における病態研究と先端的治療戦略)」  
 事務局: 山口大学器官制御医科学講座循環病態内科学(矢野 雅文)  
 〒755-8505 山口県宇部市南小串1-1-1  
 Tel: 0836-22-2248 Fax: 0836-22-2246 E-mail: ninaigim@yamaguchi-u.ac.jp  
 URL: http://www2.convention.co.jp/jhfs2005/

## 第10回学術集会

会 期: 2006年10月13日(金)~15日(日)  
 会 場: 都市センターホテル  
 会 長: 和泉 徹(北里大学医学部内科学II)  
 メインテーマ: 「心不全を予防する」  
 事務局: 北里大学医学部内科学II  
 〒228-8555 神奈川県相模原市北里1-15-1  
 Tel: 042-778-8527/042-778-8802 Fax: 042-778-8441

## 関連学会のご案内

## 第19回日本冠疾患学会学術集会

会 期: 2005年12月9日(金)~10日(土)  
 会 場: グランキューブ大阪[大阪国際会議場]  
 会 長: [内科系] 野々木 宏(国立循環器病センター心臓血管内科)  
 [外科系] 小林順二郎(国立循環器病センター心臓血管外科)  
 テーマ: 「冠疾患診療のニューフロンティア-連携と創造-」  
 事務局: 国立循環器病センター  
 〒565-8565 吹田市藤白台5-7-1  
 (事務局長: 国立循環器病センター心臓血管内科医長 佐瀬 一洋)  
 Tel: 06-6846-3145 Fax: 06-6846-3146 E-mail: jca19-office@umin.ac.jp  
 URL: http://jca19.umin.jp/

## 第22回国際心臓研究学会(ISHR)日本部会総会

会 期: 2005年12月15日(木)~17日(土)  
 会 場: グランキューブ大阪[大阪国際会議場]  
 会 長: 堀 正二(大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学)  
 事務局: 大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学(大津 欣也)  
 〒565-0871 吹田市山田丘2-2  
 Tel: 06-6875-5623 Fax: 06-6879-3639 E-mail: 22ishr-japan@medone.med.osaka-u.ac.jp  
 URL: http://www2.convention.co.jp/22ishr-japan/